

## 大阪医療技術学園専門学校 臨床検査技師科における 国際教育

松良 尚子\*

### I. 学園全体の国際教育

本校は全国に70校の専門学校を展開している滋慶学園グループの最初の設立校である。この滋慶学園では「実学教育」「人間教育」「国際教育」の3つの建学の理念を基に各種の専門教育を行っている。国際教育については、グループ全体としては中国の大学との学术交流から始まり既に20年以上の交流が行われており、10数年前からはアメリカの大学や専門学校との教育交流も行われている。昼間部の学科では必須科目として約1週間程度の海外研修プログラムを実施している。また、海外からの短期研修生の受入れも行われている。今回はこれら研修について紹介する。

### II. 海外研修プログラムの概要

本科は1997年から2年次の海外研修プログラムをスタートさせ、現在までに約1000名の学生がこのプログラムに参加している。

近年の研修先はアメリカのワシントン州シアトル市近郊にあるClover Park Technical College(クローバーパークテクニカルカレッジ)はAviation Maintenance Technician(航空機整備技術者学科)、Automotive Technician(自動車整備士学科)、Nursing(看護学科)などを始めとした約50学科の専門コースを有するワシントン州立短期大学で、1942年より、職業技術を通して地域住民に貢献

している。

学部は大別して、航空先進製造学、ヘルスケア学、ビジネス・ホスピタリティ学、科学工学、輸送産業学となり、毎年3,500名の全日制の学生と18,000名のパートタイムの学生が実学教育を学んでいる。医療系の学科だけでも12学科を有しており、このうち、臨床検査技師に関係のある学科はMedical Histology Technician科とMedical Laboratory Technician科である。

本科は1学年が40名2クラスのため、この海外研修ではクラスで春期和秋期に分かれて行っており、春期はMedical Histology Technician学科、秋期はMedical Laboratory Technician学科での講義・実習を中心に組まれている。

カレッジでの研修は、①講義・実習プログラム、②施設見学プログラム、③プレゼンテーション



写真1 クローバーパークテクニカルカレッジでの  
病理検査学実習

\*大阪医療技術学園専門学校 臨床検査技師科 n-matsura@ocmt.ac.jp

ョンプログラム、④ 学生交流プログラム、の4つのプログラムから構成されている。

具体的な内容は、① 学内実習では、血液検査や病理検査の実際の学内実習を現地学生によるマンツーマン、もしくは1人対2人の個別指導で体験している(写真1)。実習項目は日本とさほど差はないが、手法や手順など多少の相違があり、国による考え方や風習の違いを感じる。また、専門分野の特別講演では、その時の話題となっている疾患や情報、アメリカの医療制度を学ぶ機会となっている。② の施設見学では、病院の検査室や検査センター、血液センター、大学の研究施設等の見学を行っている。③ のプレゼンテーションプログラムでは日本とアメリカ両校の学生代表が今まで学んできた内容から1つテーマを取り上げて発表を行う。④ 学生交流ではお互いの国の文化や芸術を紹介・体験をしている。

### III. 事前指導

「国際教育」のメインは海外研修であるが、この研修に向けて行われる事前指導は重要な国際教育指導と考える。研修の日程が決まると学生達はグループに分かれて研修に向けての準備を行う。プレゼンテーションを行うチーム、文化交流を担当するチーム、海外渡航時に必要な情報や現地の学校や地域について調べクラスメイトに伝えるチーム等、それぞれが様々な役割を担う。発表や交流は全て英語で行われるため、発表用原稿作成等

の英語力が必要とされるため語学力の勉強となる。

### IV. 海外からの研修生の受入れ

毎年ではないが海外提携校からの希望者がいれば受け入れている。中国の学生及び教員の日本の医療制度や文化に対する理解を深め、専門分野における日本の医療技術を修得することを目的として行われている。

受け入れ期間や時期は提携校によって異なるが、近年では、2015年には広東医学院(現在広東医科大学)から臨床検査学部の学生4名、教員3名が研修で来日され、約1ヵ月の研修を行った。研修内容は本科での授業見学や実習、また、研修生向けの特別講義のほか、日本での検査センターや検査関連企業の見学、スポーツを通じた学生交流会を行った。

また、2017年6月には香港 VTC (Vocational Training Council : 香港職業訓練協議会) との合弁学科から医務検査専攻の学生17名、教員1名が来校し、検査センターの見学の他、センター職員との意見交換会、本科の学生による実習授業の紹介などが行われた(写真2)。

### V. 教育効果と問題点

短期間の研修だけで海外の医療情勢を理解することは困難であるが、これを機に国外の医療にも関心を持つきっかけとなればと考える。また、研修での発表や交流会については学生達が内容の企



写真2 株式会社保健科学西日本での職員との意見交換会

画から実行までを考えることによって主体的な学びとなっている。

問題点を以下に挙げる。

① 事前知識の不足：本科の海外研修は2年次に行われる。基礎専門を終えてやっと専門分野の学習が始まったばかりであり、日本での医療内情も理解できていない状態での研修であるため、日米間での相違が十分に理解できていないと思われる。今後は、海外研修に向けた事前学習を導入するなどして、研修の効果を高めたい。

② 語学力：講義や研究発表では通訳者が間に入って実施されるが、実習や交流会では現地学生と本科学生がマンツーマンに近い状態であり、学生同士の交流の場が多く設けられているが、英語力が不足しており思うようにコミュニケーションが取れない場合が多い。しかし、最近では翻訳アプリを利用するなど、新たな交流方法も行われている。

③ 事後指導：海外研修を終えた時には学生達は英語能力の不足や国際情勢の知識不足を痛感し知識習得への意欲を高めるが、日本での専門科目の授業が再開されると、学生達の海外への興味・関心は一気に下がる。この研修を通じて得た学びを振り返り、更なる知識修得への意欲継続に努める必要がある。

### 最 後 に

今回、海外研修を中心に紹介した。過去にはこの研修がきっかけで留学、現地での就職をした者もあり、学生の視野を広げるという意味でも継続し、より多くの国際交流の機会を設けていきたい。また、専門知識を学んでいくには海外の文献や研究論文からも積極的に知識を習得する必要がある。英語への苦手意識から国内だけのフィールドにとどまるのではなく、海外にも目を向けていける、それが国際教育の到達点であると考えている。